

9. 市史資料室と枚方地域コレクション

(1) 市史資料室の収集資料

中央図書館5階にあって文化財課が所管する市史資料室では、枚方に関する歴史資料を収集している。江戸時代を中心とした古文書から現代の行政文書まで、広く収集対象にしている。その資料を大きく分類すると、現物資料・印刷資料・視聴覚資料の3つに分けられる。

現物資料としては、古文書・古記録と公文書（行政文書）がある。これらの資料は、この世に一点しかないものである。古文書は市史編さん時に借用したものとその後ろに寄託・寄贈された新資料である。公文書は、保存年限を満了したもののうち、歴史的価値のある文書を選別して収集している。ただ、未整理のため未公開である。

第二は印刷資料で、さらに細分すると、①郷土資料、②行政刊行物、③歴史図書に区分できる。

①郷土資料とは、枚方地域に関する図書・雑誌のほか、地図、新聞、新聞折込広告、チラシ、市民団体の定期刊行物などである。図書館がいうところの「枚方地域コレクション」に該当する。

地図としては、3000分の1の白地図。昭和40年代前半の地図は、市街化が進行する前の市域の状況がわかる貴重な資料である。

新聞は、全国紙5紙の紙面から枚方の記事を切り貼りしたスクラップブックである。また、北河内や東部大阪等の地方面を切り取って収集し、マイクロ撮影している。

②行政刊行物としては、例規集、公報、広報誌、市勢概要、事業概要、年報、統計書、市議会会議録・議案書、監査資料、総合計画・基本計画、予算書・決算書など枚方市が発行したものである。

③歴史図書は、大阪府内の自治体史を中心として

所蔵資料の概要

平成27年3月末現在

資料の種類別		点数	摘要
現物資料	古文書	56,500点	117家
	公文書	7,073冊	保存年限を満了した公文書のうち歴史的価値を有する行政文書
印刷資料	古文書複製版	729冊	マイクロフィルムからの紙焼き
	郷土図書	3,880点	枚方地域に関する図書・雑誌
	地形図	65点	参謀本部陸軍部測量局 国土地理院
	新聞スクラップ	462冊	広報課から移管294冊。平成5年度から市史資料室でもスクラップ化(168冊)
	新聞折込広告	408冊	平成6年11月から。一日単位別(2地域)と分類別の2種類。
	チラシ	66冊	行政及び民間作成のチラシ
	行政刊行物	6,715点	枚方市や外郭団体が発行した行政刊行物
	歴史図書	3,078点	大阪府内などの市町村史
視聴覚資料	航空写真	2,182点	資産税課から移管
	写真・スライド	110冊	広報課など庁内から移管。写真アルバム・ネガアルバム
	マイクロフィルム	517リール	昭和55年古文書を中心に撮影。平成5年度から撮影を再開。
	新聞マイクロ	288リール	朝日新聞大13年～昭20年 34リール、昭22年～34年 30リール。平成6年から4大新聞の大阪・北河内版のマイクロ撮影
	画像データ	3,000点	市史など刊行物で使用した写真を中心

数値は整理済みの概数

府県史や市町村史である。そこには枚方関係の資料が収録されていることもある。

第三に視聴覚資料がある。中心は航空写真である。昭和29年の航空写真は、地図とともに、当時の状況を知る手がかりとなる資料である。広報課が撮影した写真やネガフィルムを引き継いで保存している。また、古文書を写真撮影したマイクロフィルムのほか、『枚方市史』に掲載した写真も保存している。

※ 市史の担当部署は、平成16(2004)年4月の機構改革によって総務部法制室から図書館に所管替えとなり、翌年4月の中央図書館開館に伴って「中央図書館市史資料室」となった。さらに、平成24(2012)年4月に図書館が社会教育部所管の教育施設に改編された際に、文化財課へ移管された。

①参考資料室の地域資料

中央図書館参考資料室では、枚方関係の地域資料を収集している。それでは、参考資料室と市史資料室との違いはなんだろうか。

それは、参考資料室ではインターネットで資料を検索できることである。また、基本的には、開架形式で配架され、自由に閲覧でき、貸出が可能である。

これに対して、市史資料室は、インターネット検索ができず、貸出もしていない。しかし、参考資料室では収集しにくい大学や研究機関発行の研究紀要で枚方関係分についてはできるだけ入手し、閲覧に供するようにしている。

こうした、両者の違いは、お互いの欠点を補い合い、利点を生かすことによって、相乗効果をあげ、市民や利用者の利便に供することができる。特に、市史資料室の情報を提供することによって、枚方地域コレクションの充実につなげている。

②地域資料の情報収集

では、地域資料をどのように収集していくかが課題である。どこから都合のよいリストが提供され

るわけではなく、職員が日々の経験を生かし情報を収集する以外にない。

まず、利用者からの情報提供である。例えば「枚方保養所」について問い合わせがあり、『朝日新聞記事集成』に3つの記事が収録されていたので、その旨回答した。その後、その内容が記載されている句誌が送られてきた。それによると、植松壽樹という歌人が大正9(1920)年から2か年ほど当時の蹉跎村に住んでいて、その時期に詠んだ歌や日記が「国民文学」に掲載され、のちに植松の第一歌集『療』や『植松壽樹散文集』に収録されていることを知えた。

あるいは、三浦蘭阪の著作で、三浦家文書に収蔵されていない「模刻鐘銘帖」が、愛知県西尾市の岩瀬文庫に所蔵されることを知ったのも利用者からの問い合わせからであった。このように市民など利用者からの情報提供を通じて、今まで知らなかった地域資料の在り処を教えていただくことが随分ある。

次に、古書目録から地域資料の情報を得ることもある。禁野火薬庫の爆発の資料として大阪府警察部発行の『枚方災害事件警備記録』を入手した。その存在すら知らなかった資料であった。また、古本市でたまたま手にした本から新資料を得ることもある。『大阪府下の文化財指定の石燈籠』(昭和52(1977)年)には、大阪府の指定文化財である片埜神社石燈籠について実測図を含めた解説があり、自家版であるが、貴重な地域資料である。

③地域史研究の宝庫

市史資料室にある多種多様な資料は、活用されて初めてその価値が見出される。

『枚方市史』全12巻に利用された資料は、資料全体から見れば1%にも満たない一部分であり、それ以降にも新資料が発見されている。

これらの埋もれた資料を読み解くことで、新事実が明らかになることもある。あるいは、『枚方市史』では記述のない空白期や空白地域を埋めることに繋がるかもしれない。

地域資料は、専門の歴史研究者だけでなく、自分が住んでいる地域に関する素朴な疑問や今後のまちづくりを進める上で過去はどうであったかを調べたりするのに欠かせない資料であろう。地域資料は、すべての人に開かれている。

(2) 枚方地域コレクション

これまで枚方に関連する資料は、行政資料と市民からの寄贈が中心であり、市立図書館として郷土資料コーナーを設けているものの、関係資料を積極的に幅広く収集している状況でなく、収集した資料もPRしたり、利用を促進したりしていなかった。

そこで、平成23(2011)年に策定した『枚方市立図書館第2次グランドビジョン』(以降、第2次ビジョン)において、枚方地域コレクションの構築を市立図書館の特色のひとつとして位置付け、枚方に関する資料を積極的に収集・活用する方針を掲げた。

枚方地域コレクションとは、枚方に関わる歴史資料、行政資料などの郷土資料、市民の著作、枚方に関する記述のあるあらゆる分野の地域資料を市立図書館として収集していこうというものである。

以来、枚方地域コレクションに該当する資料について、中央図書館選書担当を中心に選書を行い、収集に努めてきた。

また、未所蔵資料の選書と並行し、既に蔵書としている資料の内容調査を行いながら、枚方地域コレクションに該当する内容を図書館所蔵データに加えている。

平成27(2015)年度時点で、市立図書館が所蔵している枚方地域コレクションの点数は延べ約29,000冊、タイトル数は約7,000冊、利用状況では平成9(1997)年に菅原図書館がコンピュータ導入をして開館して以来、平成27(2015)年3月段階で、約200,000回の貸出回数となっている。

今後については、枚方地域コレクションの収集を継続しながら、コレクション内容に応じてデータベース化し、ホームページに掲載するなどして蔵書の有効活用につなげることが課題である。

また、枚方市に関する専門的なレファレンスにつ

いて、市立図書館の蔵書で対応できない事例に関しては、中央図書館内の市史資料室(文化財課)の協力を得て対応することがあるほか、枚方地域コレクションに該当する資料の選書協力を得るなど、引き続き相互の連携強化を図りたい。

